

## 「クリスチャンはどう成長したか？」

導入：

O I C で、礼拝のメッセージを、聖書からさせていただけることを感謝しております。

では、お祈りしましょう。

祈り：

父なる神様、私たちは、あなたの御前におります。あなたを礼拝し、あなたのみことばを聞くためです。私たちにお語りください。聖書から教えてください。そして私たちがあなたとともに歩み、あなたの栄光を表すことができますように。そして、地上でも、あなたの御名があがめられますように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

コロサイ 1：3-10（新改訳聖書 2017） を読みます。

- <sup>3</sup> 私たちは、あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。
- <sup>4</sup> キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛について聞いたからです。
- <sup>5</sup> それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のことばによって聞きました。
- <sup>6</sup> この福音は、あなたがたが神の恵みを聞いて本当に理解したとき以来、世界中で起こっているように、あなたがたの間でも実を結び成長しています。
- <sup>7</sup> そういうものとして、あなたがたは私たちの同労のしもべ、愛するエパfrasから福音を学びました。彼は、あなたがたのためにキリストに忠実に仕える者であり、
- <sup>8</sup> 御霊によるあなたがたの愛を、私たちに知らせてくれた人です。
- <sup>9</sup> こういうわけで、私たちもそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。
- <sup>10</sup> また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることにおいて成長しますように。

コロサイ人への手紙は、パウロが、コロサイのクリスチャンたちに書いた手紙です。コロサイの町は、ローマ帝国のアジア州にありました。今日のトルコの西部です。アジア州の州都はエペソで、コロサイは、そこから160キロほど東にありました。パウロは少なくとも、コロサイ人への手紙を書いた時点までには、この町を訪れたことがありません。エパfrasが、この町に福音を伝えました。パウロは彼らに手紙を書いて、彼らの愛をほめたたえています。彼らは、どのようにして、そのように変わったのでしょうか？

コロサイのクリスチャンたちの変化

コロサイ 1：3-4

- <sup>3</sup> 私たちは、あなたがたのことを祈るときにいつも、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。

<sup>4</sup> キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛について聞いたからです。

彼らの愛は、特にクリスチャンたちの中で、本当に明らかだと言っています。

なぜ、彼らは変わることができたのでしょうか。

コロサイ 1：5

<sup>5</sup> それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のことばによって聞きました。

私たちクリスチャンは、キリストを信じた時に、聖霊を受けます。そして初めて、天からの祝福を感じます。これは、地上での愛や希望をはるかに超えるものです。

私は、時々、教団の神学校でクラスを教えることがあります。そのクラスは、クリスチャンの信仰の成長についてです。つまり、クリスチャンが成長していくようにするにはどうしたらいいか、ということ扱っています。クラスの中で、この質問をします。「クリスチャンは、最初にキリストを信じた時の喜びと愛を持ち続けますか？」です。クラスでの答えは、一致していて、「いいえ、私たちクリスチャンは、最初にキリストを信じた時の喜びと愛を持ち続けているわけではありません。」です。その次に私が尋ねる質問は、「では、最初の喜びと愛がうすれてしまうまで、どのくらいの期間がかかりますか。」です。その答えは人によって違いますが、平均的なところでは、「2年くらい」という答えになるようです。そして、それからは、クリスチャンの成長はゆっくりになってしまいます。

でも、この手紙では、コロサイのクリスチャンたちの愛は、とても豊かであるようです。5節では、コロサイのクリスチャンは、福音を聞いて救われたと言われています。私たちも同じです。

福音とは何でしょう？

このことでは、有名な個所が、ローマ人への手紙の1章にあります。

ローマ 1：16－17

<sup>16</sup> 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも信じるすべての人に救いをもたらす神の力です。

<sup>17</sup> 福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

この箇所が言っているのは、福音は「信じるすべての人に救いをもたらす神の力」ということです。旧約聖書の知識を持っているユダヤ人にも、聖書の予備知識を持っていない異邦人にとってもです。

福音そのものの中に「神の力」があって、私たちを救うということです。

17節では、「福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まる。」人がキリストを信じるときに、私たちの正しさではなくて、神がご自身の正しさを私たちの中に表してください。私たちがそれを経験していくときに、私たちはさらに神に依り頼み、神に信頼していくことができます。私たちは、神が正しく、真実で、信頼できると感じるときに、私たちの神への信頼が成長していきます。このようにして、「義人は信仰によって生きる」ということになってきます。信仰とは、単純に神を信頼していくことです。自分の信仰に信頼することではありません。また「私

は大きな信仰を持っているから、私は大丈夫」とすることではありません。

#### 私の証し 1

3月の中頃に、東京で働いている私の娘が、夜に、頭に激しい痛みを感じて、そのまま気絶してしまいました。翌日、もちろん娘は仕事に行けません。彼女の上司が何度も電話をしましたが、応答がありません。そこで、その次の日に、その上司は、女性ですが、娘のアパートを訪ねて行きました。もちろんドアはしまっています。そこで、上司は、大家さんに鍵を開けてもらいました。すると娘は床に倒れていました。娘を起こして、すぐに救急車を呼びました。救急車が来て、救急隊員が娘にいくつか質問をして、そして、「立って」「歩いて」「こうして、ああして」とか言いましたが、娘は、全部の質問に答えて、言われる通りに動作をしました。ですから、救急隊は「問題なし」と判断して、帰ってしまいました。しかし、娘の上司は、何かが違うと強く思っていて、娘をタクシーに乗せて、救急隊員から聞いておいた、その近くで一番良い病院に、娘を連れて行きました。医師が診察をして、CT検査をすると、脳の中に出血が確認されて、娘は緊急入院になりました。動脈瘤の破裂です（動脈にできたコブが破裂して、血が脳の中に広がります）。

ですから、私たちも東京の病院に行って、娘の主治医にも会いました。手術は4月の最初の月曜日に決まりました。もちろん家内も私も行きます。ですから、近くのホステルに前の晩の予約を入れました。そのホステルでは、最初のチェックインは夜の9時までです。手術の前日の日曜日には、私は、名古屋の郊外の教会でメッセージをしました。月に3回、そこでメッセージをしています。その教会では午後にコンサートがあって、地域の方々もかなり参加されて、音楽も証しもとても良かったです。後の交わりも楽しかったです。そして、私たちは車で名古屋駅に向けて出発しました。駅から少し離れた安い駐車場に車を止めようと思いました。運転してまわって良い所を見つけました。そして歩いて駅に行きました。もう、少し暗くなっていました。新幹線に乗りました。そして思い出しました。「ああ、ホステルに9時までに行かなければならない。ああ、もう無理だ。」ですから、近くの他のホテルを検索しましたが、安いホテルは全部満員でした。そこで考えを変えて、ホステルに何時に着くのか確かめてみようと思いました。スマホで調べると、最寄りの駅に8:55に到着と出ました。ホステルまでは、歩いて5分ですので、「これなら9時までに着けるかもしれない」と思いました。東京駅で乗り換えるときに、予定よりも早い電車に乗れました。ですから、私たちがそのホステルに到着したのは、8:55でした。私は、神様に感謝しました。「神様。私は9時までに着かなければならないことを忘れてしていました。しかし、あなたはとても忠実な方で、すべてのことを通して私たちを導いてくださいました。ですから、私たちは必要な時間までに、問題なく着くことができました。多分、娘のことで、東京に何度も行かなければならないでしょう、そして今月はとても忙しい月になるでしょう。でもあなたが、すべての中で、私たちを完全に導いてくださいます。」そして、私は、忙しいことや、時間がないことで、心配するのをやめました。神様が完全に導いてくださるからです。

私は毎週メッセージをしなければなりません。神学校でのクラスが4月から始まります。そのための準備も要ります。

しかし、私は単純に神様に信頼することができます。「あなたが私にさせたいと思っておられることは、何であれ、全てのことの中でも、あなたが私を導いてくださって、それをなさせてくださいます。あなたは神だからです。そしてすべてを支配しておられます。」

友人の牧師から、英語と日本語で結婚式の司式をして欲しいと頼まれていました。と言いますのは、アメリカに住んでいるインド人の男性と日本人の女性の結婚式をする必要があるということでした。ですから、英語と日本語でプログラムを作って、メッセージも準備しなければなりません。

ん。しかし、感謝なことに、神様への信頼が、私の心の中にありました。

4月の最初の月曜日の、娘の手術ですが、娘は麻酔の段階で、アナフラキシー・ショックを起こしてしまいました。その段階で使われた薬に対して反応してしまいました。ですから、手術は中止で、第2月曜日に延期になりました。私たちも、改めてまた行くことになりました。

第2月曜日には、手術に10時間以上かかりました。そして手術は成功でした。私たちも喜びました。しかし、その翌日に血管の検査がされて、別の動脈瘤が見つかりました。主治医からの電話があって、「もう一度手術が必要です」ということでした。そして、第3月曜日に手術が予定されました。一回の手術のために、私は二回病院に行かなければなりません。一回は、説明を聞いて承諾書を書くために行きます。そして手術の時にも行きます。ですから、お医者さんやスタッフの方々に信頼することができました。今回も手術に10時間近くかかりました。そして手術は成功でした。私は、神様に、そしてスタッフの方々に感謝しました。医療のために献身しておられる方々です。ですから、私は、この4週間の間に、実際7回東京に行きました。でも決して、「時間が足りない」と心配したことはありません。神様は、私にさせようとしておられることをすべて、私にさせてくださるという平安と感謝があります。

英語と日本語での結婚式のことですが、新郎新婦、その教会の牧師、そして私が、準備のために集まりました。式の一週間前でした。新郎はクリスチャンとしての信仰が長い人ですが、新婦に、結婚前に洗礼を受けて欲しいと思っていました。と言いますのは、新婦はつい最近キリストを信じたばかりですが、新婦は、自分がキリストを信じて救われていると分かっていたので、洗礼を受けることに同意されました。その教会の牧師は、うれしい驚きをもって、その場で、新婦の洗礼式をされました。神様こそが、そのことを願っておられたのだと思います。ですから、神様は、私にも結婚式の手伝いをするように導かれたのだと思います。当日は、小さな結婚式でしたが、皆が神さまの祝福を感じることができました。

パウロたちが、コロサイのクリスチャンのためにしていることは何でしょう。

#### コロサイ1：9-10

<sup>9</sup> こういうわけで、私たちもそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。

ここで、パウロは「あなたがたが、あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされますように。」と祈っています。

ここで「知識」ということばは、ギリシャ語で[エピグノーシス]が使われています。[エピ]は上という意味で、[グノーシス]は知識です。ですから、このでの「知識」は、高い知識とか、上からの知識という意味があります。この知識は、勉強したら得られるというものではありません。神から来る知識です。ですからパウロは、彼らが、霊的な（聖霊によって与えられる）知恵と理解力によって、神のみこころについての知識に満たされるようにと祈っています。

<sup>10</sup> また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び、神を知ることに成長しますように。

「主にふさわしく歩み」です。

私たちが「主にふさわしく歩む」ということが、どうして可能になるのだろうか、私は思ってきました。そして「あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び」ですが、私

も良いクリスチャンになろうとしてきました。しかし、私の心の中には、競争心や、不満、時に怒りや憎しみがあるのを感じてきました。ですから、神に喜ばれる聖い心なんか持てるわけがないと思ってきました。しかし、神がそれらすべてを私たちのために備えていてくださいます。そして、神は、それらすべてを私たちに与えてくださいます。私たちが、お願いすることによってです。神は、神がそれをしてくださると信頼することを願っておられます。神が私たちの行いを変えてくださいます。それは特注品として、特別に神にお願いするからではなく、神が、当然なこととして用意してくださっているものです。

## エペソ 2 : 10

<sup>10</sup> 実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました。

神は、私たちにしたいと思っておられるすべての良い行いを、すでに私たちのために備えていてくださいます。これは、特別にお願いするからではなく、当然なこととして、すべてのクリスチャンのために備えておられます。神は、すべての状況の中で、私たちを導いてくださって、私たちが、神が用意してくださった良い行いに歩めるようにしてくださいます。

## 私の証し 2

第3月曜日の娘の手術に立ち会うために、私は、また、日曜日に車を名古屋の都心部に止めました。でも今回は、駐車場をもう少し名古屋駅に近い所で見つけました。最初の日曜日は、最大料金が1日700円でした。そして、日曜日と月曜日で、1400円払いました。でも、このときは、最大料金が600円でした。私は思いました。「良かった。神様が私をさらに祝福してくださった。」私の心の中に「私は神様を信頼している。だから私は祝福されるのだ」という思いがありました。そして、そこに止めました。月曜日の夜に戻って来て、機械のところで支払おうとしました。31時間ほど止めました。金額が3900円でした。「どうして？」と思いました。そして、料金のボードを見ますと、「最大料金600円、6時間当たり。6時間ごとに繰り返し課金されます。」私は不注意でした。でも、それよりも神の御前にもっと重大なことは、私が自分の信仰を誇っていたということです。神様がそれを私に気づかせてくださったと思います。

## 箴言 3 : 5

<sup>5</sup> 心を尽くして主に拠り頼め、自分の悟りに頼るな。

私たちは、自分の悟りや信仰に信頼して生きるのではなく、私たちの心全部で神を信頼して歩んでいきたいと思えます。神がすべての中で、私たちを導いてくださいます。

## 祈り

父なる神様。あなたは御子イエスを、私たちのために十字架におかけになりました。ですから、私たちのすべての罪は赦され、私たちは間違いなく天の御国に行くことができます。しかし、それだけでなく、あなたは私たちがすべき、すべての良いわざをも備えていてくださいます。主よ。私たちがいつもあなたに信頼していることができますように。いつも私たちがあなたとともにいることができるように助けてください。そしてあなたの栄光が、私たちを通して豊かに表れますように。

イエスの御名によって祈ります。アーメン。